

# 多様化社会における米国の 言語聴覚士 (SLPs: Speech-Language Pathologists) の役割と活動

多様化そして高齢化が進む社会において、米国の言語聴覚士 (以下SLPs: Speech-Language Pathologists) の存在は重要性を増しています。SLPsは、エビデンスに基づき、かつ患者のニーズに応じた最適なケアを提供することが求められています。今回は、様々なコミュニケーション障害や自閉症スペクトラム等の発達障害を持つ人々とSLPsがどう関わり、どのようなアプローチを用い、ニーズに応じたサポートを実践しているかについて、現場の様子に触れながらお話をさせていただきたいと思います。

開催日時

2024年 11月1日 金 18:00▶19:30

参加費

無料

講師

布施明子 氏

対象

- 看護職をはじめとする医療にかかわる方々
- 学生や休職中の方々も参加OK
- 有資格者でなくてもOK
- 医師・歯科医、介護・福祉関係の方もご参加ください

お申込み

アカデミア看護研究会に会員登録(無料)のうえ、お申込みください。事務局より視聴用URLをご連絡いたします。

CUNY ブルックリンカレッジ コミュニケーションアーツ・サイエンス・障害学部、大学院、音声言語病理学科 准教授 兼 自閉症スペクトラム障害専攻、大学院プログラム コーディネーター。  
CUNY 心理学博士 (Ph.D.)、実験心理学修士 (M.A.)、心理学修士 (M.Phil)。Columbia U. ティーチーズカレッジ 音声言語病理学修士 (M.S.)、アメリカ言語聴覚協会認定/ニューヨーク州ライセンス言語聴覚士 (SLP)。現場での特別支援教育や乳幼児への早期介入サービスによる訪問治療に携わり臨床経験を積む。また、自閉症スペクトラムを始め、様々な発達障害や病気等による言語、発語、認知障害やコミュニケーション障害等の治療に関わる。大学では学部生や大学院生向けに、評価・診断、治療、発語や言語発達、鑑別診断、そして臨床現場において、エビデンスに基づいて、多様化に応じた文化対応能力と適切なケアに関する教鞭をとっている。また研究メソッドの指導にも関わり、米国内外の学会において研究発表やワークショップを行っている。

アカデミア看護研究会とは？

看護職をはじめ医療にかかわる皆様が、就業継続をしながら学び続ける機会を提供します。研修会、講演会、ワークショップ、研究討論などを通し、情報交換や会員相互の親睦を図ります。

年会費について

2024年7月より 3,000円/年 (資料代として250円/月 250×12=3,000円/年)

※お支払方法など詳細は別紙「年会費について」をご覧ください。

連絡先

アカデミア看護研究会会長  
中島美津子  
(m-nakashima@thcu.ac.jp)

●会員登録のご案内

<http://ns-aca.com/join/>

●第51回学習会の詳細・お申込み

<http://ns-aca.com/学習会/20241101/>

会員登録係

看護職の採用と定着を考える会  
(info@rsn-kango.com)

会員登録が  
まだの方は  
こちらから

アカデミア看護研究会

検索

●事務局よりお願い● ※info@rsn-kango.com からの受信の許可をお願いいたします。

※メールが届かない場合、迷惑メールフォルダに入っていることがありますのでご確認のほどお願いいたします。

